

一学期を過ぎて

— T 雄の記録より —

〔健康の面で〕

四月の終りから五月にかけて三日間、風邪で休む。

六月中旬、腹痛の為一週間。

七月初め、扁桃腺で五日間休んだ。

いつも土曜日の晩というとき、きまって熱を出す。T雄は生まれるより入園前までは、ほんとうに丈夫で、一年に一度、風邪をひく程度、三日くらいで全快したし、腹痛など一度もなかった。

それが、こんなに休みが多いので、手洗い、うがいが不十分なのか、または、栄養の面で欠けるものがあるかと、いろいろ注意したが、バスで通うので疲れるのではないかと考え、担任の先生にうかがってみた。

(注) 『保育研究法、中央幼児教育研究会編』による、『疲労に関する調

査』というのに、T雄の様子をあてはめて考えた)

疲労についての調査

- (1) あてはまるものに○をつけよ。
 - 1 食事の量が急に減少した。
 - 2 甘える(だきつく、だかれたがる、はなれたがらない)
 - 3 すぐ泣く。
 - 4 怒りっぽくなった。
 - 5 不きげん。
 - 6 ぐずったりする。
 - 7 ねごとをいう。うなされる。夜尿をする。
 - 8 登園をいやがる。
 - 9 起床時にぐずる。(やや)
 - 10 体重が減少した。
- (2) 上のような疲労の様子は今月どのように変化したか。

上 旬 中 旬 下 旬

(多い) 少ない ない (多い) 少ない ない (多い) 少ない ない

- (3) 一週間について (特に目立つ× 目立つ△ 目立たない○)
 日よう 月よう 火よう 水よう 木よう 金よう 土よう
 △ △ △ △ × × ×
- (4) 以上の他に特に気のついた事。

登園前 非常にはり切って出かける。走る事もある。

帰宅 バス降りてから家まで、のそのそ歩き、一寸でも母の方が先になると、マッテテ!と泣く。妹の乳母車にすぐのりたがる。

夕方(夜)

1. 食事の量について……疲れていれば食事の量が少なくなるかと思いますが、とてもよくたべる。お菓子でも果物でも何でもたべる。
10. 体重について……幼稚園では毎月計っていたのですが、家庭ではわからない。



(問) スクールバスでお通いになる方で、最高長時間乗っていらっしゃる方はどのくらいでしょうか。そしてその方は病気で休みになることはございませんでしょうか。

Ｔ雄は片道十七分バスにのっております。帰りのバスの中が一番眠たいと申します。

〔先生のお答え〕

六月に入りＴ雄ちゃんの欠席が多くなってまいりまして気になっておりました。

スクールバスは普通のバスよりゆっくりはしりますので、十七分はむしろ近い方でございます。一番遠い方は〇〇〇〇で、バスが方々廻って行きますので、約一時間半かかります。その為の欠席はございません。

もし、疲労しているとすれば、幼稚園での生活はどうであろうか。先生がお書きくださったノートから引用すると、

社会性の面

入園当初は楽しみに安定した様子でした。

四月半ば頃から活発さが目立ってきました。一人であちこちらと飛び廻りたのしそうでしたが、一つの遊びの持続時間が短く、次々と変わるのでついていくお友達もなく、落ち着かなく見えて、少々気になりました。しかし好ましい活発さに見えました。

四月末から五月始における三日間の欠席の後、Ｔ雄ちゃんの活発さは一段と行動範囲が広くなり、お友達への働きかけが目立ってきました。と同時に、『Ｔ雄ちゃんが……した』といううたえが多くなってきました。そしてとうとうお隣の席があいたままになり、お話しあいの効果なく、ニコやかな態度で次第に念入りの事が続発しはじめました。その状態が約一カ月続きました。腹痛の欠席(六月半ば)の前後からやや少なくなったように思われます。

運動機能について

よく発達してひとときわすぐれています。この面をますます伸ばすことで社会性にプラス出来るのではないかと考えてみました。よじのぼる力が比較的弱いので大いに激励したり鉄棒でむずかしい事を要求してみました。

絵画について

一番心配なのですが、書く力より批判力が先になってしまつて書きにくいようです。少し書き出す時期がおくれてむずかしいと思っております。絵を書くのでなくてクレヨンで遊ぶのだという事が分つてくださるようにと努力しているつもりです。

これを読んでも、幼児の教育八月号のＴ雄の記録をみても、幼稚園では力一杯活発に動きまわっているらしい。疲れはみえないようだ。むしろ、他への働きかけが積極的にその方に問題があるくら

いだけ。

〔家庭では〕

バスからおりて家まで十分ほどの道のりもちょうど正午の暑さと、坂をのぼるのとて容易でない。幼稚園で思いきり遊んではねまわってくるので、家に帰っては近所のお友達と遊びたがらない。

午後、暑い日は、妹と水遊びをする。直径一メートルちょっとのビニール・プールである。

正午、暑いのでケーキと牛乳とか、パンと牛乳とかのおやつをたべてすぐ海水パンツになって入る。

二時間遊んで、二時に「おかあさんと一しよ」というテレビをみるために家に入り、二時半ごろお食事をする。

妹はひるね、T雄は、必らず横にはなるが眠ることはあまりない。

時々、T雄は自分で考えて夢中でやりだすことがある。

狭い狭い庭で「お母さん穴ほっていい？」ときく。「真ん中ならいいわ」というと、おとなのスコップで一生けん命泥んこになってほる。

「明日も幼稚園から帰ったらほるからこのままにしておいてね」といって、翌日、幼稚園から帰って食事をすませると、

「さて、仕事にかかるか」

「三〇メートル（T雄は三〇メートルがどのくらいかを知らない）ほるよ。向う側みえるかなあ」

などといっている。

穴が深くなるたのしみもあるだろうが、おとなが、スコップを土にさしこむ時に足で力を入れるところに、両足でのってしまい、土に倒れる時が、ファーとして気持がいいらしい。

だいぶ長いこと、毎日やっていたが、三〇メートル（？）にならないうちに埋めなければならなくなり、埋めてしまった。

たった一メートルくらいの穴だったが、大きな石にぶつかると、一きわ夢中で掘っていた。細かいいろいろな石が出て来るたびに、

「ホラ」

とみせに来た。

穴が掘れなくなると、今度は、小さなオママゴトの道具に水をいれ、こわれたツメブラシで、ゴシゴシ、ゴシゴシ、ぬれ縁をこすりはじめた。洗面器に水を入れた方がやりいいだろうとおとなは思うが、ツメブラシがやつと入るくらいに入れものであるところがいらしい。その水をつけてはゴシゴシやる。水がなくなると、また水をくんで来てゴシゴシやる。

最初の日は、二時間ちかくやっていた。

翌日、乾いたら、こすったそこだけが、木がけばだち、真っ白になってしまった。

幼稚園から帰ると、またそこに坐りこんでやりはじめる、というのが二、三日続く。

二日、三日とだんだん興味がうすれ、やっている時間も少なくな

なる。

夜は、花火をやったり、母と三人でふざけっこをしたり、お話をしたり、大体八時ごろ寝る。

× × ×

こうして一日T雄のしている事だけをかいてみると、いわゆる「いい子」のように思えるが、これに、とばしたひこうきを妹が拾ってやぶいたといつては泣き、おすべり台の上で妹が早くすべらないといつては

「ようし」

などややっているのが入るのである。

一日のしている事柄だけを記すよりも、そうした接触とか、母親への甘えなどがどういふ場合に、どのようにおこるか、そしてそれをどうやって処理しているかという事の方が、記録としては大切であるが、毎日、たびたびの事なので、どれを書いてよいか、また母がその渦の中に入ってしまったので正確に記録することがむずかしい。

断片的な事なら喋れるのであるが、記録として残すとなると、何時何分に帰って来て、こんな遊びをする、夜は何時に寝るといふ方が正確なので記しやすい。

〔再び先生のノートから〕

総括的に見て、現在のT雄ちゃんの目標は集中することと、更にじっくりたのしむ態度を養うことだと考えております。エネルギーを良い方向にむける」ということも、T雄ちゃんの場合のその方向につきましては精神的環境を温室にするのではなく、良い事と迷惑な事の区別を自分でして、自分で選んでいけるよう助力をさせていただきたいと考えております。

家では興味をもつと一つの事を長いことたのしんでいる。が、集団の中で「じっくりたのしむ態度」がないといわれる。

T雄は、「幼稚園で何が一番おもしろい」ときくと、

「ブランコ、と鉄棒、はじっこから（運動場の）順々にやっていくの」

親は幼稚園というと、おままごとを男の子も、女の子と仲よくやっている姿を頭に描がいているので、

「おままごとは？」

「しないよ、一回も、ぜんぜん。ブランコや鉄棒の方がずーとおもしろいもの」

そこでや々と自分の子どもと幼稚園が結びつくのである。

もう少し幼稚園に馴れてブランコや鉄棒と同じくらい他のものに興味がわいてきたとき先生の御指導でそういう態度も養われていくと思う。

後の「精神的環境を温室にするのではなく、良い事と迷惑な事の

「区別を自分で選べる」ということは、家庭でも気付いていた事であり、家庭でもその方向に努力しなければならぬので具体的な方法について先生にお教えたかどうかと思っている。

今、母の感じている事は、

「母と約束した事はよく守れるが、約束しない事は時として出来ないことがある」事である。

例えば、

お医者様に行った時（郵便局、銀行も同じ）

「大勢人のいるところでは静かにしてらんだっただけでしょう。静かに出来るかな」

「出来る」

そういう時は静かに坐っているが、たまたま急いで行ったり、話す前に知り合いの男の子でもいようなものならたいへんである。

スリッパでバタバタ歩く、椅子から下りたり上ったりする。

また、庭先のプールに入っている時、

「二時までにしまししょうね」

とっておけば、

「二時よ」

といたただけで「ハイ」と上ってくる。

たまたまいってないと、

「もう出ましよう」

という、

「イヤイヤ、まだまだ」

といてきかない。

テクニクとしては、

「じゃあもう五分ね、長いほうが1に行くまで」

といえばそれですむことだが、そういう事のくり返しであってよいものだろうか。

その他、家はとても狭いので（一戸建、借家、二間）遊びが限定される。どうしても母が、妹とけんかをしないで遊べるように、道具を揃えてやったり、おすべりにしてもやり方を

「こうしてすべったら」

と助言をする。

そういう母の動作が、T雄自身の良い悪いの判断を自分でさせないようにしているのかもしれない。

× × ×

幼稚園で活発すぎるとうかがって、自分のやり方にまちがったところがあるのだろうか、疲れているのだろうかと母はずい分心配したが、T雄自身は、家は狭いし、はねまわれる適当な場所もないので、毎朝、よるこんで幼稚園に行き、力一杯遊んでかけまわり、くたくたにつかれて帰って来る、すこぶる満足な毎日を送っているらしい。